

豊後高田市 不思議で魔法にかかったように神秘的な都市

豊後高田によろこそ。時代を超えて受け継がれてきた遺産と素晴らしい自然、文化的アトラクションを備えた都市が、日本の片隅にあります。九州の国東半島に位置しており、歴史都市である京都と東京からは隔てられていたため、均一的な現代社会の影響を受けることなく、独特の局面が多く残されました。どの道を曲がっても、ドラマチックな自然の景観と、文化遺跡を目にすることでしょう。この文化遺跡は 1300 年以上前に仏教と日本固有の信仰が融合したものとされています。

国東半島を探索するときに、利便性の高い玄関口となるのは、豊後高田市です。豊後高田市は、人口密度の高い沿岸地域から内陸に向かって広がっています。みずみずしい農地を通過して上がっていくと岩山に到達します。この岩山が、数千年もの間変わらない景観をもつ谷間を見えなくしています。数世紀にわたり、この山の火山性の岩石は、石彫工が使う鑿の引き立て役となっています。寺院に向かう入り口で目にするのは、石彫工の芸術的な技の一例が刻まれている荘厳な岩肌です。さらに道路脇や、地元家族の庭でもよく見かけます。70%の日本の石造仏が国東半島にあると言われています。この地域は、古代と密接に繋がっていて魔法のような何かがあります。

道路は、標識がしっかりと表示されており、よく管理された状態です。英語の道路標示も多く、車を使うレジャー旅行の場合、目的地まで非常にアクセスしやすくなっています。もっと何か難しいものを探している人には、起伏の多い奥地に入る道があります。

この道は、修行中の身でサンダルを履いた修行僧専用の道でしたが、今では、様々な距離ならびに難易度のトレッキングルートを利用できます。

豊後高田市は、隠れた財宝を安全に隠せる場所です。日本ですが大部分が手つかずの地であり、好奇心をそそる文化には、非常に奥が深い不思議が詰まっています。

六郷満山 宗教を容認する遺産

国東半島を理解するうえで、六郷満山よりも重要なものはありません。六郷満山とは、この地域と、ここで誕生して栄えた文化の両方を指します。六郷とは、文字通り 六(6)と郷(地域)を意味しています。国東半島の6つのコミュニティは、山筋によって分けられています。満山の漢字では、「山が多い」と読むことができますが、実際には無数の寺院が点在することを指しています。寺院は、山道側にある特定の岩石から、昔から修行僧が学ぶ中心地までの範囲に広がっています。ここでは、様々な信仰の共存が年月を経て生まれ、国東の独自の文化をつくってきました。

スペースと神様を共有

国東半島において8世紀または9世紀のあるときに、密教が古来の山岳信仰とともに初めて共存するようになりました。これは近隣の宇佐市にある宇佐神宮で始まったものであり、国で最も重要な神社の1つですが、あまり知られていません。2つの宗教には、特定の神様や、参拝場所として同じ敷地、および地域に広がる習慣などを共有できるほど十分な共通点が見られます。結果として、教義と教訓の入り混じった折衷的なものになりました。例として鬼が挙げられます。仏教時代の前に発祥した伝説的な鬼は、仏教祭りにおいて、中心的な立ち位置にいるのが見受けられます。古代から続く印象的な形をした面は、鬼の体現として長きに渡り使われ、今も地元の祭でみることができます。人に幸運をもたらし、邪気を払うと言われています。

教育と改宗

かつて、65を超える寺院が国東半島に点在しており、異なる機能に特化した地域を約3地域に分割しました。西側にある寺院は学問研究に焦点を当てており、中央部の寺院は修行を、東側の寺院は仏様の言葉を布教する活動に集中していました。今日では数が減少してしまい、31の寺院が確認できます。六郷満山を定義するスピリチュアルなオーラは、この地域の隅から隅まで行き渡っています。